

## 1.調査目的等

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

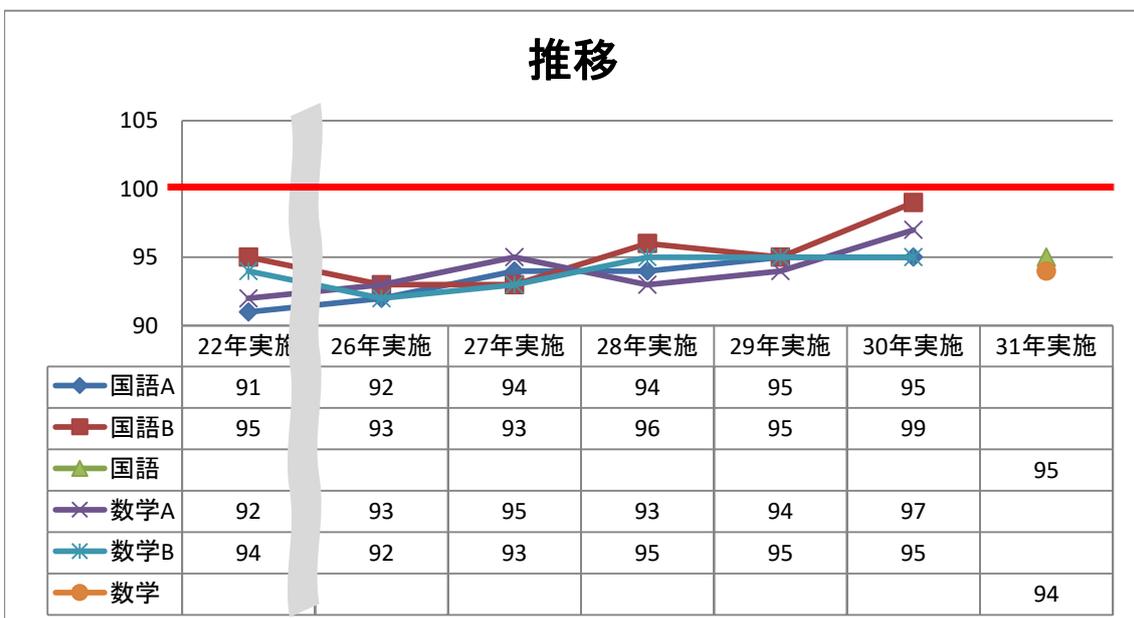
全国学力調査：国語・数学共に標準化得点100以上にする。

## 3.指標に向けての取組

- ・指導形態の工夫、問題解決的な学習等の工夫をし、「楽しい授業」「わかる授業」づくりを行う。
- ・「思考ツール」を活用し、自分の考えをしっかりとまとめさせる授業の徹底。
- ・家庭学習（毎日の課題・週末課題）の定着のために、宿題の提出を徹底する。
- ・宿題を二種類用意し、個に応じた課題に取組ませることで、個人の学力向上を図る。
- ・自尊感情や自己指導能力を高めるために、プロジェクトアドベンチャー活動を計画的に実施。
- ・基礎・基本の内容の定着を図るためにモジュール学習や週末確認テストを計画的に実施。

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	95	94
嘉麻市	97	95
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

## 5.各学校における分析

○本年度からテストの形式が変更になり、経年比較はできないが、平均正答率の全国との差は、国語：10.8%、数学：14.8%、英語：15%となっている。さらに、各教科毎に正答率50%以下であった問題を見てみると、  
国語：情報を整理し内容をとらえる問題(1二)、封筒の書き方(1四)話題をとらえて自分の考えをもつ(2三)  
数学：連立二元方程式(2)、反比例(4)、グラフ座標(6-1)、数学的に説明する(6-2)、図形(7-3)、資料活用問題(8)  
これら正答率50%以下の結果になった要因として、基礎基本の定着を図る「モジュール学習」や「思考ツール」を活用したかく活動の設定が不十分であったと考える。

○質問紙「平日の1日あたりの勉強時間」を見ると、30分以上1時間未満が25.4%と一番多く、次に2時間以上3時間未満が20.3%であった。このことから勉強する生徒と、しない生徒との差があり、家庭学習の定着が不十分であったと考える。

## 6.各学校における今後の取組

○「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善に向けて、主題研を通して得た「書く活動」「話し合う活動」を取り入れた授業を一単元に1回は実施する。

○「思考・判断・表現(知識の活用)」に関する問題の計画的な実施に向けて県義務教育課資料ページを活用し、取組の充実を図る。

○学習内容の定着を目指した分割授業・TT授業の実施や補充指導、個別指導を行う。

○生徒の家庭学習の実態を各家庭に知らせるとともに、「山田中学校家庭学習のすすめ」を配付し、家庭学習の定着を目指した取組の充実を図る。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 「思考力・表現力等を問う」定期考査の実施や授業評価の取組に対する指導助言を行う。
- 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。